

地域にちなんだ紙芝居で地域交流

【松陵市民センター】

「みんなで創る紙芝居講座」

複数年事業として平成30年度からスタートし、今年で3年目となります。

この講座を企画した背景には、地域住民の高齢化に伴い、平日の昼間に地域で活動する人が増えており、地域でのサークル活動や社会福祉活動が活発になってきていることがあげられます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら受講生同士の交流を深めつつ個々に創作活動を行いました。また、創作した紙芝居をきっかけに地域の図書ボランティアや地域住民の方々との交流を行い、活動の広がりを目指しました。

「地域素材を基に物語を創作」

「みななで」一つのを創りたい」「地域素材を共通につくれないかな」と意見を出し合いました。「馬車が走っていた」その地域「熊野神社には杉の將軍様という大きな杉の木がある」「昔起きた山火事は青林神社で収まった」など地域の伝わる話をアレンジして紙芝居を創作していき、ことを決めました。

「図書ボランティアの方との交流」

地域の小学校や児童館で活動をしている図書ボランティア「松陵えほんの会」の方から、読み聞かせの仕方や「ソ」を学びました。すでに地域で活動をしている団体との学習会を通して、地域活動につながる交流を深めることができました。

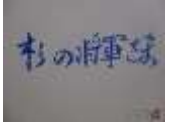
また、「ソ」で学んだことを生かし、発表会を開くことで活動の幅をさらに広げることができました。

「発表会・地域交流につながる紙芝居へ」

2月に、創作紙芝居を使った発表会を地域の方を対象に開きました。地域素材を基にした「紙芝居」の発表会を行ったことで地域への関心や地域の交流のきっかけとなりました。

今後は、各メンバーが敬孝会などの地域活動で紙芝居を披露したり、貸し出ししたりして有効に活用し地域のつながりづくりのツールとして役立てていきます。また、これまでの活動で得た「生きる活力」をさらに広げ高めていきます。

▶地域素材を生かして創作した紙芝居



▲創作紙芝居美演発表会



▲図書ボランティアの方との交流

問 松陵市民センター
0375-81001